

## 札幌キャンパスが環境省「自然共生サイト」に認定

～大都市札幌の中心部の貴重な緑地として、生物多様性保全、気候変動対策に貢献～

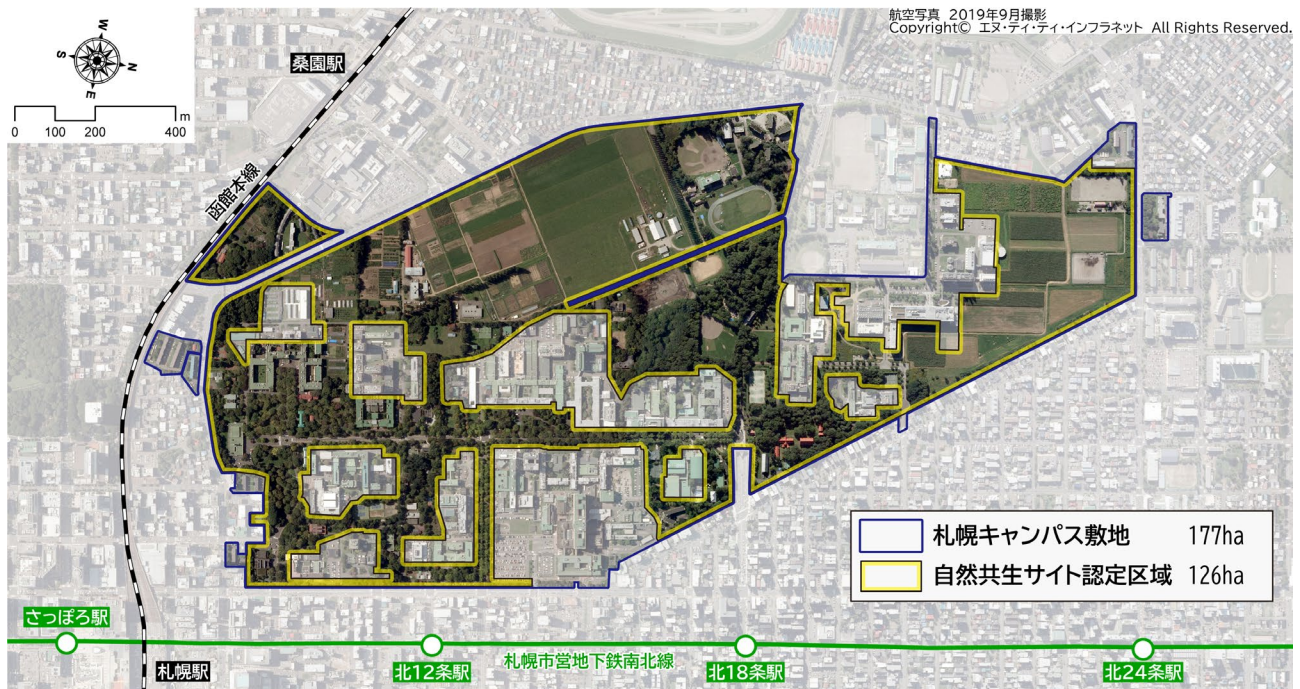
### 【概要】

北海道大学札幌キャンパスは、2024年2月27日（火）に、生物多様性の保全に貢献している区域として、環境省より「自然共生サイト」に認定されることが決定しました。本学においては、2023年10月25日（水）に認定を受けた雨龍研究林に続き、2カ所目の自然共生サイト認定となります。

申請者：国立大学法人北海道大学

サイト名称：北海道大学札幌キャンパス

認定面積：126ha（キャンパス全体の敷地 177ha から工作物が集積している範囲を除いた区域）



自然共生サイト「北海道大学札幌キャンパス」の認定区域

今後、自然共生サイト認定区域は OECM\*<sup>1</sup>国際データベースに登録される予定です。登録されることで、30by30\*<sup>2</sup>目標達成に直接的に貢献し、2030年までの生物多様性に関する新たな世界目標である「昆明・モントリオール生物多様性枠組」に寄与することとなります。

北海道大学は、世界課題の解決や地域への貢献に向け、知的資産と物的資産を活用し、30by30目標の達成への貢献はもちろん、生物多様性保全と気候変動対策との両立に向けた統合的なサステナビリティの推進に取り組みます。

令和5年度後期「自然共生サイト」認定結果について（環境省報道発表資料）

[https://www.env.go.jp/press/press\\_02789.html](https://www.env.go.jp/press/press_02789.html)

## 【北海道大学札幌キャンパスについて】

敷地内に広大な生物生産研究農場や研究林（実験苗畑）があり、市街地にある大学キャンパスとしては全国屈指の面積（177ha）を誇ります。多くの文教施設が建ち並ぶ一方、札幌の原風景でもある原始の森や豊平川の伏流水の湧き出したメムの跡、希少種を含む多様な動植物相などの生態系が長年にわたり良好に保全されてきました。

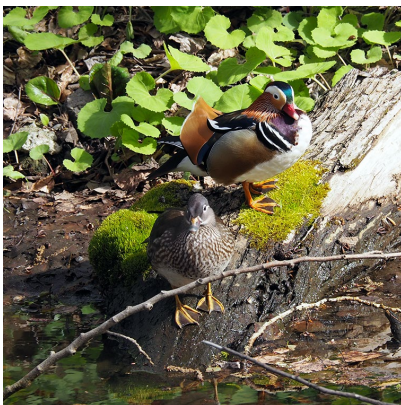
中央ローンやエルムの森などの緑地、構内を流れるサクシュコトニ川、ポプラ並木や銀杏並木などの植栽、夏場を中心に飼養する乳牛・羊などが放牧される農場の広々とした牧歌的景観は、歴史的建造物をはじめとした建築物とともに、緑豊かでおおらかな景観を形作っています。このような恵まれた環境の下、キャンパス全体が日常的な学術研究や自然環境教育の場、学生・教職員に留まらず、市民のほか多くの見学者が訪れる憩いの空間となっています。



教職員だけでなく多くの市民も憩う中央ローン



生物生産農場の広々とした牧歌的な景観  
調査研究フィールド、生産の場でもある



オシドリ



エゾサンショウウオの幼生



サクラマス

(写真提供：中村慎吾氏)

## 【札幌キャンパスの生態系・緑地の保全・管理】

本学は、1997年に国内大学の先駆けとして大学の施設整備の基本計画となるキャンパスマスタープラン\*3を策定したことを皮切りに、持続可能な発展を含むキャンパス環境の維持に取り組んできました。大学の創設・発展の歴史の中で育まれた広大でゆとりある、おおらかな景観や歴史的建造物・自然環境は大学のみならず地域社会における資産であり、未来に渡り継承していくべきものとして、その一体的な保全に努めています。

生態系や緑地に関する専門的知識・技術をもつ学内の教職員で構成するサステイナブルキャンパスマネジメント本部生態環境マネジメントWG主導の下、2009年より毎年実施している生態環境調査

(生物相調査)の結果を活用しながら、生態環境保全管理方針\*4に沿って持続的な緑地の保全、管理を実施しています。

#### お問い合わせ先

北海道大学サステナビリティ推進機構サステナブルキャンパスマネジメント本部  
T E L 011-706-3660 F A X 011-706-4884 メール osc@osc.hokudai.ac.jp  
U R L <https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/>

#### 配信元

北海道大学社会共創部広報課 (〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目)  
T E L 011-706-2610 F A X 011-706-2092 メール jp-press@general.hokudai.ac.jp

#### 【用語解説】

- \*1 OECM … **O**ther **E**ffective area-based **C**onservation **M**easures の略。国立公園などの保護地域以外で生物多様性保全に資する区域。
- \*2 30by30 … 2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする国際的な目標。公民連携による目標の実現のために環境省、経団連及びNGO等の発起人により2022年4月に発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」へ、北海道大学はこの趣旨に賛同し、2022年6月より参画している。  
<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>
- \*3 キャンパスマスタープラン … ①キャンパス像に関する長期的ビジョンを確立する、②キャンパス環境の質の向上を図る、③あるべき姿を示し、変化の必要性を知らしめる、④施設の配置とデザイン決定の理論を確立することなどを目的として策定されるキャンパス環境の基本的な計画。北海道大学では、1997年に最初のキャンパスマスタープランを策定後、2007年、2018年に社会情勢の変化、施設環境の課題、大学経営戦略に対応するキャンパスマスタープランを策定している。  
<https://www.sustainability.hokudai.ac.jp/about/policy/cmp/>
- \*4 生態環境保全管理方針 … 北海道大学札幌キャンパスにおける緑地の持続的な管理、保全及び利活用に関する方針・取り組みを定めたもの。緑地の区分(ゾーニング)を設定し、その区分に応じた緑地内部の保全戦略、開発行為のガイドライン、維持管理の方針、利用のルール等を定めている。  
<https://www.facility.hokudai.ac.jp/一般の皆様へ/生態環境保全管理方針>